

ほとんど知らない オーケストラの話

(第3回)

楽員は芸能人か?

東京フィルハーモニー交響楽団
専務理事・楽団長
石丸 恭一

芸能人とは、映画・演劇・音楽・ダンス・演芸など舞台上に上がり観客に芸を見せ報酬（ギャラ）を受け取ることを職業とする人である。

というのが定説なのですが、オーケストラの楽員は、なんと給与制度（一般的雇用）なのであります。

現在のオーケストラの形はドイツで生まれました。

その運営体制は給与を公費（税金）で賄う雇用制度でした。当時の欧州文化の位置づけ（文化程度）とインフラとしての役割が国家政策として必然性があったのではないのでしょうか。

その文化を取り入れる為に現在も世界のほとんどのオーケストラがこの制度をとることとなっています（アメリカは税法が他の国と違うので見掛けは民営の形になっている）。

オーケストラの経営はその国の文化に対する考え方を反映していることなので、文明国間ではオーケストラはその国の文化程度を測るものと言われるのもその為なのであります。

我が国日本ではこのグローバルな団体に公営と民営が混在しています。

過って公社公団と民間が混在していたように未

だにその政策が残存しているのであります。

世界で有名なオーケストラは、というとベルリンフィルハーモニー交響楽団、ウィーンフィルハーモニー管弦楽団が挙げられると思いますがこの二つは経営が異なっています。

ベルリンフィルは公営、ウィーンフィルは西欧唯一の民営で楽員はウィーン国立歌劇場の楽員で準公務員なのです。その副収入の為に楽員自らが結成したのがウィーンフィルなのです。

コロナパンデミックの結果、世界のオーケストラは停止しました。

世界最初に公演を行ったのはベルリンフィルで（5月1日）、ただし「無観客」で公共性をアピールする事が主目的。

次いでウィーンフィルで（6月5日）、「有客」で副収入を得る事が主目的。

日本で最初に公演を行ったのは東京フィルハーモニー交響楽団で（6月15日）、経営の為に給与を得る事が主目的。

その他世界の主なオーケストラは今も公演を停止しています。

日本以外のオーケストラは公演停止でも給与は停止してはいないというお話でした。